

レコード芸術特選盤  
1°

ファリャ／ピアノ編曲作品全集 レコード芸術特選盤  
那須田務 評

(レコード芸術 2013年1月号より)

西澤安澄によるファリャのピアノ曲集の二枚目。前回はオリジナルのピアノ曲を集めていたが、今回は《恋は魔術師》や《三角帽子》などよく知られたバレエ音楽のピアノ版を中心とした選曲である。それも主として作曲家自身の編曲だ。筆者の愛聴盤にポンスがバルセロナの劇場のオーケストラを振り、フラメンコの canta óra、オルテガが参加した《恋は魔術師》がある。それは例えばフランスやドイツなどのオーケストラとオペラ歌手による演奏とは一味もふた味も違う。この曲本来の精神と響きを教えてくれるが、西澤のピアノもそれを想起させる(黒字に赤のジャケットも似ている)。まさに本物の語り口。一曲目の〈バントマイム〉のトランペットを模倣した響き、〈情景—きつね火の歌〉の独特な歌い回しに canta óra の唸り声が聴こえてきそうだ。〈幽霊—恐怖の踊り〉の弾けるリズム、〈火祭りの踊り〉はチッコーニがアンコールにしばしば取り上げるが、西澤の演奏は同じように多彩な音色ながら一層強烈なコントラストを放っている。《7つのスペイン民謡》はハルフテル編曲版。色濃い哀愁に満ちた3曲目の〈アストゥリアーナ〉がすばらしい。本場のリズムを感じさせるのは〈ホタ〉も同様だ。ダンサブルかつ透徹したタッチで各声部を弾き分けた《はかなき人生》の〈スペイン舞曲〉やフラメンコのダンスを見ているような〈三角帽子〉の〈粉屋の踊り〉などの曲にもスペインのスピリットが息づいている。

レコード芸術特選盤  
2°

ファリャ／ピアノ作品全集 レコード芸術準特選盤  
西澤あずみのファリャを聴いて 濱田滋郎 評

西澤あずみの「マヌエル・デ・ファリャ ピアノ作品全集」は、一聴して「心から推せる1枚」と思った、近来まれなほど美しいCDのひとつである。スイスのジュネーブ音楽院、ドミニク・メルルのクラスを首席で卒業後、ヨーロッパを中心に活動、とりわけスペインと縁が深く、同国の大作曲家ファリャに傾倒して、当アルバムに研鑽の成果を問うわけだが、現在まで世に多くない企画としての資料的価値以上に、演奏芸術家としての高い資質が、光のしずくのようにきらめいているのを目を見張らされた。主要作品である「ファンタシア・ベティカ(アンダルシア幻想曲)」や「四つのスペイン風小品」はもとより、「夜想曲」「カンシオン」ほか初期の小品にも、ただ正確に弾き上げるのではなく深く心を通わせ、秘められた美まで汲み出してみせる手際は非凡そのもの。ほかのレパートリーもぜひ聴いてみたいと思わせる新星の登場である。



西澤安澄 (p) [ Verso D SVRS 2 0 8 9 ] ¥ 2 6 0 0 (日本語解説つき)  
輸入発売元: 株式会社サラバンド



西澤安澄 (p) [ プロメテウス PMCC1960 ] ¥ 2 94 0 (日本語解説つき)  
輸入発売元: 株式会社マーキュリー



Mercury inc.



横浜スペイン協会

Graphic design by Senapedesign www.senapedesign.com



第一部

モーツァルト 幻想曲 ニ短調 K.397

ベートーベン ピアノソナタ

作品57 '熱情'

第1楽章 Allegro assai

第2楽章 Andante con moto - attacca

第3楽章 Allegro ma non troppo - Presto

休憩

ファリャ

7つのスペイン民謡

-ムルシア風セギディーリャ - 子守唄

- ホタ・ポロ

アンダルシア幻想曲

組曲「恋は魔術師」

-パントマイム - 恐怖の踊り

- 漁師のロマンス - 火祭りの踊り

2013年3月8日(金)

渋谷区 文化総合センター大和田

さくらホール 19時開場 19時半開演

【料金税込】一般4,000円 学生2,500円

チケット取り扱い

メールinfo@azuminishizawa.com

公式サイトwww.azuminishizawa.com

お問い合わせ

プロメテウス音楽事務所

03-3377-9710

会場 渋谷区桜丘町 23-214F

アクセス 渋谷駅下車 西口 徒歩5分

セルリアンタワー横

モーツァルト 幻想曲 ニ短調 K.397

「幻想曲」というタイトル通り自由な形式で書かれ、冒頭の序奏のような役割を果たす分散和音の部分や、哀感に満ちた美しい主題など、靈感が遺憾なく発揮されている。

ベートーベン ピアノソナタ 作品57 '熱情'

ベートーベンの全作品中において燃えるような激しい感情と寸分の隙もない音楽の構成の一致から、最高傑作の中のひとつに数えられている。

第1楽章 Allegro assai

主題は5対1の鋭い付点リズムであり、いわゆる「運命」の動機と対になって繰り返される。不気味なつぶやきのような冒頭の分散和音、低音部に現れる「運命」の動機、襲いかかるようなフォルティッシモ。強烈なコントラストが「運命」と対抗する人間の葛藤を表すかのようである。

第2楽章 Andante con moto - attacca は沈滞した魂の祈りの如き変奏曲で曲を開始して、それを終楽章への序奏としている。

第3楽章 Allegro ma non troppo - Presto

疾風怒濤の感情の嵐、情熱の奔流の終楽章では、その当時のピアノという楽器の概念などを度外視して、狂暴なまでの感情の爆発に終始する。最後のコーダでは、実に10回にわたり当時の楽器の最高音を叩き、その後、凄まじい奔流となってピアノの最低音の奈落の底までなだれ込む様は、聞く人の心を引きずり込むようである。

ファリャ

7つのスペイン民謡

民謡風の印象的なメロディにオリジナルで斬新な和声がつけられている。本演奏会では弾けるように明るく快活なムルシア風のセギディーリャ、秘めた熱情を込めて静かに歌うナナ(子守唄)、小気味良いダンスブルナリズムと伸びやかな歌唱部分の対称が魅力的なホタ(スペイン舞踊の一種)、アンダルシアの情熱的な恋の歌ポロを紹介する。

アンダルシア幻想曲

疑いの余地もなく古今のスペインのピアノ音楽の歴史における最高傑作である。この作品の誕生の由来は名演奏家ルビンシュタインが自身のコンサートで演奏するために曲を依頼した事に由来する。ルビンシュタインはファリャの「火祭りの踊り」をコンサートで愛聴していた。ファリャは猛々しくも厳格なスペインのエッセンスを、高度な超絶技巧を要求する、華やかな、技術的にも音楽的にも非常に難しい芸術作品に昇華させた。

組曲 恋は魔術師

ジプシー娘カンデラスの物語で、その恋人のカルメロは彼女の亡夫であったならず者の浮気男の亡霊に悩まされている。そこで彼女は友人の美しいジプシー娘に亡霊を誘惑してもらい、その隙にカルメロとめでたく結ばれる、という筋である。本作品はジプシーたちのアンダルシア訛りの歌が、違和感無く曲調にあてはまるほど実にアンダルシア、フラメンコ的で、特筆すべき美しさと獨創性にあふれた傑作である。パントマイム(凶暴な亡霊の呼び声)に続き、恋するカルメロの甘い踊りのシーン、恐怖の踊り(亡夫の亡霊から逃げ惑うカンデラスの踊り)、美しくも密やかな漁師のロマンス、迫力満点の火祭りの踊りを演奏する。

西澤安澄

Azumi nishizawa / ピアニスト



西澤安澄は国際的に評価を得ている数少ない若手日本人ピアニストのひとりで、とりわけスペイン音楽の解釈においては、数少ないスペシャリストとしてスペイン本国においても高い称賛を得ている。桐朋学園女子高音楽科、同大学にて神谷郁代、岡本美智子、池田素子に学ぶ。その後フランスの巨匠・名教授として高名なドミニック・ムルレにその才能を見出されて、ジュネーブ音楽院大学院にて師の薫陶を受けた。2002年に同音楽院演奏家コースを満場一致の一等賞で卒業後、スペインを代表するピアニストで名教授のホアキン・ソリアノに招かれ拠点をマドリッドへ移し世界各国で活発な演奏活動を開始。フランス、イタリア、スイス、スペイン、ポルトガル、日本、中国の主要な音楽ホールにてリサイタルを行った。日本でのコンサートツアーの他、世界の音楽祭や演奏会シリーズにも定期的に招待されている:ジュネーブ芸術協会の定期演奏会シリーズ(スイス)、フランスシヨパン協会主催パリ・シヨパン・フェスティバル、京都千夜一夜音楽祭、ヴィエツァンツァ春の音楽祭(イタリア)、ロス・クラシコス・デ・ベラノ・エン・マドリッド(スペイン)、トーレシユダ音楽祭(スペイン)、ロープレス音楽祭(スペイン)、エンクエントロス・ファリャ音楽祭(スペイン)、ウベダ国際音楽舞踊フェスティバル(スペイン)、ハエン音楽祭、その他。2008年、京都清水寺での奉納コンサート、改装されたスペイン・グラナダ大音楽堂こけら落としのために招待されてリサイタルを行う等さまざまなシーンにおいてソリストとして活躍している。2010年6月に行ったローマでの演奏会はRAI(イタリア国営放送TV)とCANAL 10に録画、繰り返し放映されるなど世界各国での活発な活動を評価され、2010年インターネット音楽祭国際親善賞を受賞した。西澤安澄はソロ活動と並行して室内楽のジャンルにも力を入れており、室内楽奏者としても高い評価を得ている。これまで名門スイスロマン・木管クインテットとの日本ツアー、アッサイ弦楽四重奏団、また世界の一流アーティストとの共演:トランペット奏者のG・アルメイダとのデュオや、ヤマハアーティストとして、サクソ奏者の須川展也と行ったヨーロッパの主要都市(パリ、ロンドン、マドリッド、ミラノ、ベルリン、ケルンその他)でのコンサートツアーは大好評を博した(2009)。2010年春には、スペインのレーベルVERSOより「ファリャ:ピアノ作品全集」(レコード芸術特選盤)をリリース、スペインが世界に誇る偉大な作曲家ファリャの数少ない、そして初めての本格的なピアノ曲全集CDを造る歴史的プロジェクトとして、ファリャの遺族、スペイン精鋭の音楽学者らの積極的な応援のもと、異例の日本人のピアニストとして起用され、また西澤のスペインでの幅広いユニークな活動が評価されHEINEKEN初のクラシック音楽へのスポンサーシップを得るなど二重の快挙となった。2012年5月には新たにCD「ファリャ:ピアノ編曲全集(レコード芸術特選盤)」を、スペイン、ウベダ市国際舞踊音楽祭の開幕コンサートにて発表、演奏を行い高い評価を得た。レコード史上世界初のファリャピアノ作品全集という面においても、新たなファリャ作品の資料として注目を浴びている。2003年、映画「福耳」(宮藤官九郎、田中邦衛主演)出演、演奏。2004年、上海師範大学非常勤教授。2006年よりヤマハ・スペイン・ポルトガル専属アーティストとして各地でコンサート、マスタークラスを行っている。